

はち ひめ
鉢 かつき 姫

おおさか ぶ みんわ
大阪 府の 民話

むかしむかし、河内かわうちの国くに(かわちのくに→大阪)に、ひとりの大金持ちおおがねもが住すんでいました。なに不自由ふじゆうない暮らしくをしていましたが、子どもこだけはどうしてもさずかりません。

それで毎晩まいばん、長谷寺はせでら(はせでら)の観音かんのんさまて(かんのんさま)に手をああおねがおねがいをして、ついに念願ねんがんの子どもこが生まれうれたのです。

その子どもこはお母おかあさんによく似たに、美しいうつく姫ひめです。

ところが姫ひめが十じゅう三さん才さいになっとした年おかあ、お母おもさんは重びょうきい病びょうき気きにかかりましたた。

お母おかあさんは、姫ひめを枕元まくらもとに呼よぶと、

「わたしはまもなく遠とおい所ところへ行いきます。わたしがいなくなるのは運命うんめいですから、悲かなしむ必要ひつようはありませははん。さあ母かたみの形見あたまに、これを頭あたまにのせていなさい。きつと、役やくに立たちますかからね」

そう言いって重おもい箱はこを姫ひめの頭あたまの上うえにのせたばかりか、大おおきな木きの鉢はち(はち)までかぶせました。そして、お母おかあさんはなくなりました。

お父おとうさんは姫ひめの頭あたまの上うえの鉢はちを取とろうとしますが、どうしてもはずせません。

そのために姫は『鉢かづき』といって、バカにされたり、いじめられ
たりしました。

やがてお父さんに、二度目の奥さんがやってきました。この新しい
お母さんが悪い人で、鉢かづき姫にいじわるをしたり、かげ口を
たたいたり、最後にはお父さんをうまくだまして、鉢かづき姫を
追い出してしまったのです。

家を追い出された鉢かづき姫は、シクシク泣きながら大きな川の
ほとりにやってきました。

「どこへ行ってもいじめられるのなら、ひと思いに、お母さまのそばへ
行こう」

ドボーン！

思いきって川の流に飛び込みましたが、木の鉢のおかげで浮き
あがってしまいました。鉢かづき姫は、死ぬ事さえ出来ないのです。

村の子どもたちが、鉢かづき姫に石を投げました。

「わーい。頭がおわん。からだは人間。お化けだあー」

ちょうどその時、この国の殿さまで山陰(さんいん)の中将(ちゅうじょう)
(ちゅうじょう)という人が、家来を連れてそこを通りかかりました。

ちゅうじょう しんせつ ひと はち いえ つ かえ
 中将 は親切な人だったので、鉢かづきを家に連れて帰ってふろたき
 おんな
 女 にすることにしました。

ちゅうじょう よんにん おとこのこ うえ さんにん けっこん
 この中将 には、四人の男の子がいます。上の三人は結婚してい
 いちばんした わかぎみ よめ
 ましたが、一番下の若君には、まだお嫁さんがいませんでした。

こころ わかぎみ はち ひめ きず て みず はこ
 心のやさしい若君は、鉢かづき姫が傷だらけの手で水を運んだり、
 おふろをたいたりするのを見てなくさめました。

「しんぼうしなさい。きっと、良い事があるからね」

「はい」はち ひめ こと
 「はい」鉢かづき姫は、どんなにうれしかった事でしょう。こんなに
 ことば おかあ し はじ
 やさしい言葉をかけられたのは、お母さんが死んでから初めてです。

それから、なんにち す
 それから、何日か過ぎました。

わかぎみ おとう まえ で
 若君は、お父さんの前へ出ると、

ちちうえ むすめ けっこん おも つよ
 「父上。わたしは、あの娘と結婚しようと思います。しんぼう強く、
 こころ き い
 心のやさしいところが気に入りました」と、言ったのです。

もちろん、おとう ちゅうじょう はんたい
 もちろん、お父さんの中将 は反対です。

「ならん！ あんな、おんな
 ふろたき女 など！」

「いいえ！ むすめ すば じょせい むすめ ほか
 「いいえ！ あの娘 は素晴らしい女性です。あれほどの娘 は、他には
 いません！」

「^{すば}素晴らしい？ ^{ほか}他にはいないだと？・・・ ^{ヨーシ}よーし、では^{よめあ}嫁合わせを
^{あに}しようではないか。兄たちの^{よめ}嫁と、あの^{はち}鉢^{くら}かづきを^{くら}比べようではないか
 」

^{さん}三人の^{あに}兄の^{よめ}嫁は、^{うつく}とても^{むすめ}美しい^{むすめ}娘です。

^{はち}こうすれば^{ひめ}鉢^はかづき^は姫は^{じぶん}恥ずかしくて、^い自分から^いどこかへ行って
^{かんが}しまうだろうと^{かんが}考えたのです。

さて、^{よめあ}いよいよ^{よる}嫁^{はち}合わせの^{ひめ}夜^{おも}が^てきました。鉢^{はち}かづき^{ひめ}姫は^{おも}思わず^て手を
^あ合わせて、^{はせでら}長谷寺^{ほう}の方^{ほう}をお^{ほう}が^{ほう}みました。

「^{おかあ}お母^{かんのん}さま。観^{こんや}音^{よめあ}さま。今^{あに}夜^{かた}、嫁^{あに}合わせ^{かた}が^{かた}あります。お兄^{あに}さま^{かた}方^{かた}のお
^{よめ}嫁^{よめ}さんは、^{うつく}とても^{ひめぎみ}美しい^き姫^き君^きたちと^{よう}聞^{はち}きます。わたしの^{よう}様^{はち}な^{はち}鉢^{はち}かづき
^でが^い出^いて^い行^いって、^{わかぎみ}いと^{はじ}お^{はじ}しい^{はじ}若^{はじ}君^{はじ}に^{はじ}恥^{はじ}を^{はじ}か^{はじ}か^{はじ}せる^{はじ}く^{はじ}らい^{はじ}なら、^{はじ}い^{はじ}っ^{はじ}そ
 この^{はじ}ま^{はじ}ま^{はじ}ど^{はじ}こ^{はじ}か^{はじ}へ・・・」

^{とき}その^{とき}時^{とき}です。

^{いま}今^{あたま}まで^{きばち}どう^{きばち}しても^{きばち}は^{きばち}ず^{きばち}れ^{きばち}な^{きばち}か^{きばち}つ^{きばち}た^{きばち}頭^{きばち}の^{きばち}木^{きばち}鉢^{きばち}が、^{きばち}ポ^{きばち}ロ^{きばち}リ^{きばち}と^{きばち}は^{きばち}ず^{きばち}れ^{きばち}た^{きばち}の
 です。

^{はち}鉢^{した}の下^{した}からは、^{ひめ}か^{あらわ}が^{あらわ}や^{あらわ}く^{あらわ}ば^{あらわ}か^{あらわ}りの^{あらわ}姫^{あらわ}が^{あらわ}現^{あらわ}れ^{あらわ}まし^{あらわ}た^{あらわ}。

^{はち}そして^{なか}鉢^{なか}の中^{なか}からは、^{きん}金^{ぎん}・^{ほうせき}銀^{ほうせき}・^{ほうせき}宝^{ほうせき}石^{ほうせき}が^{ほうせき}あ^{ほうせき}と^{ほうせき}か^{ほうせき}ら^{ほうせき}あ^{ほうせき}と^{ほうせき}か^{ほうせき}ら^{ほうせき}こ^{ほうせき}ぼ^{ほうせき}れ^{ほうせき}出^{ほうせき}まし^{ほうせき}
 た。

あらわ わかぎみ い
そこへ現れた若君 がい言いました。

すば むすめ うつく ひめ よめあ
「やはり、あなたは素晴らしい娘 だ。さあ、美しい姫よ、嫁合わせに
い
行きましょう」

やしき なか さんにん あに うつく きかざ ひめ
屋敷の中では、三人の兄たちの美しく着飾った姫 たちがならんでい
ます。そこへ鉢 かつき姫 が、ニコニコと笑いながら現れました。

「おおーっ」

おとう ちゆうじょう おも こえ うつく
お父さんの中将 が思わず声をあげたほどの、まぶしいばかりの美し
さです。

ちゆうじょう はち ひめ て じぶん よこ すわ わかぎみ
中将 は鉢 かつき姫 の手をとって自分の横 に座らせると、若君 に
い おまえ い とお すば むすめ むすめ
言いました。「まったく、お前の言う通り素晴らしい娘 だ。この娘
つま しあわ く
を妻とし、幸せに暮らすがい」

ちちうえ ちち
「はい、父上 ！」 「ありがとうございます。お父さま」
わかぎみ ひめ なか く に にん ま なんにん
それから若君 と姫 は仲 むつまじく暮らして、二人の間には何人かの
こ う
子どもも生まれました。

とき はち ひめ はせでら かのん おまい
ある時、鉢 かつき姫 が長谷寺の観音 さまにお参りをしたときのこと
です。

ほんどう かた すがた ぼう あ
本堂 の片すみで、みすぼらしい姿 のお坊さんに会いました。

ぼう かお み はち ひめ
そのお坊さんの顔を見て、鉢 かつき姫 はびっくり。

「まあ、お父^{ちち}さまではありませんか」

「姫^{ひめ}、姫^{ひめ}か！」

二人^には抱き合^{にん}って、数^{だきあ}年^{すうねん}ぶりの再^{さいかい}会^{よろこ}を喜^おびました。すっ^おかり落^おちぶれ
て新^{あた}しい奥^{おく}さんにも見^み捨^すてられたお父^{おとう}さんは、鉢^{はち}かづき姫^{ひめ}を追^{おい}出した
事^{こと}を後悔^{こうかい}して、旅^{たび}をしなが^{はち}ら鉢^{はち}かづき姫^{ひめ}を探^{さが}していたのです。

「すま^{ほんとう}なかつた。本^{ほん}当^{とう}にすまなかつた」

泣^ないてあやまるお父^{おとう}さんに、鉢^{はち}かづき姫^{ひめ}はにっこりほほえみま^はした。

「いいえ。いろ^{いま}いろありましたが、今^{いま}はと^{しあ}ても幸^{しあ}せな^あのですよ」

それ^{おとう}からお父^{おとう}さんは鉢^{はち}かづき姫^{ひめ}の^{ひめ}と^{しあ}ころにひ^くきとられ、幸^{しあ}せに暮^くら^くし
ま^くした。